

「佐渡金銀山」保存・活用行動計画
令和5年度事業点検・評価調書

4-Ⅱ-3

4-Ⅱ-3

章	第4章 世界遺産登録に向けた来訪者の受入体制整備	取組項目	多様な説明媒体の整備
節	Ⅱ. ガイダンス機能・ガイド体制の充実	事業主体	佐渡市世界遺産推進課
事業(施策)名	3 多様な説明媒体の整備	関連団体	県文化課、佐渡地域振興局(地域振興担当)
事業実施期間	H28～R6		
事業概要	<p>【事業目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 説明媒体の整備により、来訪者の構成資産に対する理解促進を図る。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構成資産の価値を分かりやすく説明するため、関係機関と協力し、ICT等を活用した映像の提供や多言語機能など、効果的な様々な説明媒体と整備する。 ※ICT:Information and Communication Technology <p>【本計画終了時点のゴール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既に設置したサインの4割(西三川地区の解説サイン)の多言語化を完了させる。(来訪者の現地受入体制を充実させることで、利便性が向上する。) 		
これまでの取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来訪者向けのパンフレット(外国語対応したものを含む)を作成し、各種施設での配架、イベントでの配布などを行った。 ○ 最新の推薦書案の内容を反映させるよう、随時内容の見直しを行った。 ○ ガイダンス施設「きらりうむ佐渡」においては、ICTを活用した展示内容としたほか、現地ガイドアプリを開発した。 ○ 令和4年度には、宗太夫坑及び道遊坑坑内で使用が可能な「佐渡金銀山音声ナビ」(日・英)を整備した。 		
事業計画と実績	<p>【R5年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ガイダンス施設「きらりうむ佐渡」において、大型シアターやプロジェクションマッピングを用いた構成資産の解説を継続する。 ● 西三川エリアの金子勘三郎家主屋の既設解説サインにQRコードを設置し、英語対応を図る。 <p>【R5年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ガイダンス施設内において、大型シアターやプロジェクションマッピングを用いた構成資産の解説を行った。 ● 金子勘三郎家主屋内の解説サインに英訳用のQRコードを設置した 		
課題・今後の取組	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 既に設置・発行済みのサイン類やパンフレット類、ホームページやガイドアプリなど、多言語対応を必要とする媒体数が非常に多い。 ■ 佐渡金銀山の価値を分かりやすく説明するために、どのような媒体を用いるべきか検討が不足している。 ■ 既存解説サイン等には多言語化対応していないものもあるため、対策が必要である。 <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年度末には既に設置したサインの4割の多言語化を完了させるよう取組む。 ■ サインやパンフレットなどの既存の説明媒体を活用しつつ、QRコード読み取りやアプリ改修、VRやAR等の最新技術を用い、理解しやすい説明媒体の検討を進める。 		
事業評価	<p>【ゴールに対するR5末の達成度】 ◇ 概ね計画どおりに進められたことからB評価とした。</p> <p>[A ・ (B) ・ C]</p>		

A: 予定を上回る進捗
B: 概ね予定どおり
C: 遅れている。